

2019年3月購入候補本の参考情報

1. 宝島 HERO's ISLAND 真藤順丈



【要旨】

英雄を失った島に、新たな魂が立ち上がる。固い絆で結ばれた三人の幼馴染み、グスク、レイ、ヤマコ。生きるとは走る、抗う、そして想い続けることだった。少年少女は警官になり、教師になり、テロリストになり—同じ夢に向かった。超弩級の才能が放つ、青春と革命の一大叙事詩！！

おすすめコメント

タイトルの「宝島」とは沖縄のこと。戦後1952年から沖縄復帰1972年までの20年間の物語。3人の若者が激動の時代を生き抜いていく。541ページにおよぶ長編すべてに渡ってみなぎる圧倒的な熱量と密度に舌をまいた。あえて多用したと思われる沖縄方言にカナルビがふってあることで、読者をリアルに沖縄の舞台へと引きずり込んでいく。この本は現代に続く沖縄基地問題を正しく理解するうえで必読といえます。第9回 山田風太郎賞受賞 第160回 直木賞受賞

2. 1R(ラウンド)1分34秒 町屋良平



【要旨】

デビュー戦を初回KOで飾ってから三敗一分。当たったかもしれないパンチ、これをしておけば勝てたかもしれない練習。考えすぎてばかりいる、21歳プロボクサーのぼくは自分の弱さに、その人生に厭きていた。長年のトレーナーにも見捨てられ、現役ボクサーで駆け出しトレーナーの変わり者、ウメキチとの練習の日々が、ぼくを、その心身を、世界を変えていく—。第160回芥川賞受賞作。

おすすめコメント

スランプに陥ったボクサーの話。文体が特徴的で最初とまどったが、だんだん耳に心地よくなる。いわゆる普通のスポ根ものとはまったく違う。

3. ニムロッド 上田岳弘



【要旨】

新時代の仮想通貨小説。仮想通貨をネット空間で「採掘」する僕・中本哲史。中絶と離婚のトラウマを抱えた外資系証券会社勤務の恋人・田久保紀子。小説家への夢に挫折した同僚・ニムロッドこと荷室仁。……やがて僕たちは、個であることをやめ、全能になって世界に溶ける。「すべては取り換え可能であった」という答えを残して。

おすすめコメント

第160回芥川賞受賞作。それでも君はまだ、人間でい続けることができるのか。あらゆるものが情報化する不穏な社会をどう生きるか。

4. つくもがみ笑います つくもがみシリーズ3 畠中恵



【要旨】

江戸は深川で損料屋を営む出雲屋では、主人の清次と妻のお紅、跡取りの十夜とともに、そんなつくもがみたちが仲良く賑やかに暮らしていた。ひよんなことから、大江戸屏風に迷い込み、二百年前にタイムスリップしたり、旗本屋敷の幽霊退治にかり出されたり。退屈しらずのつくもがみたちが、今日も大奮闘！

おすすめコメント

人から百年以上大事にされた品物は、人ならぬ、つくもがみになるという。アニメ化も大好評のお江戸妖ファンタジー「つくもがみ」シリーズ第三弾！

5. 帰去来 大沢在昌



【要旨】

警視庁捜査一課の“お荷物”志麻由子は、連続殺人犯の捜査中に、何者かに首を絞められ気を失う。目覚めたのは異次元の「光和26年のアジア連邦・日本本共和国・東京市」だった。もう一人の自分は異例の出世をした“東京市警のエリート警視”。闇組織からは命を狙われ、警察内部でも汚職警官の摘発など、非情な捜査方法が非難を浴び、孤立無援であることを知る。戸惑いながらも彼女は、“エリート警視・志麻由子”となって捜査を継続するしか方法がなかった…。

おすすめコメント

大沢在昌、作家生活40周年記念の第1弾は、パラレルワールド警察小説 警視庁捜査一課の女刑事が、「光和26年のアジア連邦・日本共和国・東京市」にタイムトリップした——。麻由子は、「元の世界」へ戻ることができるのか？

6. かわたれどき まんまごとシリーズ7 畠中恵



【要旨】

町名主のお気楽跡取り息子・麻之助。周囲の心配をよそに、恋よりも揉め事に振り回される日々。ところがある日、縁談相手を名乗るかわいい娘が現れて…。

おすすめコメント

人気のまんまごとシリーズ 第7弾！

7. 野の春(流転の海 第9部(最終版)) 宮本輝



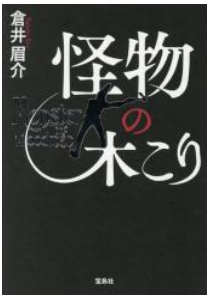
【要旨】

自らの父をモデルにした松坂熊吾の波瀾の人生を、戦後日本を背景に描く自伝的大河小説「流転の海」。昭和四十二年、熊吾が五十歳で授かった息子・伸仁は二十歳の誕生日を迎える。「俺はこの子が二十歳になるまでは絶対に死なん」そう誓った熊吾の、大願成就の日を家族三人で祝うが…。熊吾の人生の最期には、何が待ち受けていたのか。妻の房江は、伸仁はどう生きていくのか。そして、幸せとは、宿命とは何だろうか。時代を超えて読み継がれる大河巨篇、完結。

おすすめコメント

自らの父をモデルにした松坂熊吾とその家族の波瀾の人生を、戦後の時代を背景に描く大河小説、全九巻でついに完結。感動の最終幕。

8. 怪物の木こり 倉井眉介



【要旨】

サイコパス弁護士 vs. 頭を割って脳を盗む「脳泥棒」、最凶の殺し合い！ すべては26年前、15人以上もの被害者を出した、児童連続誘拐殺人事件に端を発していた……。

おすすめコメント

第17回『このミステリーがすごい！』大賞受賞作。選考委員各氏も絶賛した、サイコ・スリラーです。「手に汗握る展開、衝撃的な要素、次々に起きる新たな事件と、読み始めたら止まらない」北原尚彦氏(作家)、「ぶっ飛んだ設定のおもしろさに加えて、テンポのよさと意外性のあるプロットが光る」大森望氏(評論家・翻訳家)、「サイコパスの弁護士が謎の覆面男に襲われるという意表をつく出だしからはまった。謎を追い始める展開もスリリング」香山二三郎氏(コラムニスト)

9. 新章 神様のカルテ 夏川草介



新章
神様のカルテ

【要旨】

信州にある「24時間365日対応」の本庄病院に勤務していた内科医の栗原一止は、より良い医師となるため信濃大学医学部に入局する。消化器内科医として勤務する傍ら、大学院生としての研究も進めなければならない日々も、早二年が過ぎた。矛盾だらけの大学病院という組織にもそれなりに順応しているつもりであったが、29歳の膵癌患者の治療方法をめぐり、局内の実権を掌握している准教授と激しく衝突してしまう。

おすすめコメント

舞台は、地域医療支援病院から大学病院へ。シリーズ320万部のベストセラー4年ぶりにして、10周年を飾る最高傑作！内科医・栗原一止を待ち受ける新たな試練！

10. いい女、ふだんブツ散らかしており 阿川佐和子



【要旨】

父の葬式、認知症の母の介護、還暦過ぎての結婚…激動の日々はつづく。これが「アガワ流」人生の戦い方。さようならのあとに、神様と友達、居残りメロディ、闘う女たち、土と花、男の捨て台詞、サンライズ サンセット、復活の日、いい女の条件、箸休めタイム〔ほか〕

おすすめコメント

父の葬式、認知症の母の介護、そして還暦過ぎての結婚……。じわじわ訪れる小さな老いを蹴散らして、挑戦し続ける「不肖アガワ」が激動の日々を綴る。

11. 跳ぶ男 青山文平



【要旨】

土地も金も水も米もない、ないない尽くしの藤戸藩に、道具役(能役者)の長男として生まれた屋島剛は、幼くして母を亡くし、嫡子としての居場処も失った。以来、三つ齡上の友・岩船保の手を借りながら独修で能に励んできたが、保が切腹を命じられた。さらに、藩主が急死し、剛が身代わりとして立てられることに。そこには、保の言葉と、藩のある事情があった—。

おすすめコメント

と友を失い、独りになった少年・剛は、能だけが生き甲斐だった。だが、土地も米も金もない貧乏藩の藩主の身代わりを命じられ…。直木賞作家の新たな代表作

12. 辛夷の花 葉室麟



【要旨】

九州豊前、小竹藩の勘定奉行・澤井家の志桜里は近習の船曳栄之進に嫁いで三年、子供が出来ず、実家に戻されていた。現藩主の小竹頼近と家老三家の間に、藩政の主導権争いの暗闘が火を噴きつつある近頃、藩士の不審死が続いていた。ある日、隣家に大刀の鍔と栗形を浅黄の紐で結んで“抜かすの半五郎”と呼ばれている藩士が越してきた。庭の辛夷の花に託した歌の意味とは…。

おすすめコメント

剣を紐で縛り”抜かすの半五郎”と呼ばれてきた男が剣を抜く時！ 小藩の藩政を巡る攻防と志桜里の思い。爽快、痛快、迫真の長篇時代小説！

13. 夢を釣る 吉原裏同心抄5 佐伯泰英



[要旨]

廓の用心棒・神守幹次郎は、姉妹の売れっ子見番芸者が、禁忌を犯した客と床入りいるとの噂を聞く。同時に年の瀬、煤払いの賑やかな吉原で、二人の間抜けな掏摸が捕まる。二つの小さな出来事の裏には、吉原を貶める大胆な企てが蠢いていた。命を懸け大捕物に挑む幹次郎は、苦悩の果てに、新たな使命を心に誓うことになる。

おすすめコメント

寛政の改革の締め付けに苦しむ吉原に、また新たな事件が。大忙しの幹次郎だが、ラストにはある驚きの決断について語られる——。シリーズ第5弾！